

## 平成25年度 指導資料「児童生徒の心に響く道徳の時間の指導」

### 指導資料の活用にあたって

平成25年度の指導資料「児童生徒の心に響く道徳の時間の指導」の作成にあたっては、次のことを基本的に踏まえる事項としました。

#### 1 主題名について

主題名は、ねらいと資料で構成した主題を端的に表したものとすることが大切です。特に、児童生徒の発達の段階を十分配慮して表現を工夫し、ねらいの達成の一助となるように留意しました。

#### 2 資料名とその出典について

道徳の時間の指導においては、主題のねらいを達成するために児童生徒の感性に訴え、豊かな感動を与える資料等、児童生徒の心に響く資料の選定に努めることが大切です。そこで、「小学校道徳読み物資料集」（平成23年3月文部科学省）・「中学校道徳読み物資料集」（平成24年3月文部科学省）から資料を取り上げ、より効果的な指導方法を考えるようにしました。

#### 3 主題構成表について

主題構成表は、道徳の時間の指導内容を明らかにし、本時のねらいを明確にするものです。どの指導事例も、指導者の基本的な構えや手順として、次の5点を大切にしています。

##### (1) ねらいとする道徳的価値の分析

- ・1つの内容項目にも、複数の道徳的価値が含まれています。そこで、どの道徳的価値で指導するのか、焦点化を図る必要があります。
- ・人として生きる上で、その道徳的価値にどのような意味や必然性があるのかを授業者自らの言葉で考え、道徳的価値の本質をつかみます。道徳的価値についての授業者の捉えの深さが、授業での児童生徒の追求の深さに大きく関わってきます。
- ・児童生徒の発達の段階から、特に重視する内容は何かを具体化します。

##### (2) 児童生徒の実態・意識の要因の把握

- ・具体的な行動から、まずできていることに着目し、それを児童生徒の道徳性のよさとして捉えます。
- ・ねらいとする道徳的価値から、児童生徒の行動の奥にある意識（感じ方や考え方を、自分自身、他者との関わり、対象との関わりなどの視点から多面的に考えます。
- ・行動の奥にある意識を生み出す要因を明らかにします。この分析が、本時の展開の基本発問につながっていきます。

##### (3) 資料の分析

- ・授業を構想するに当たり、次に示す4点到留意しながら何度も資料を読み込むようにします。
  - ①ねらいとする道徳的価値や展開にとらわれて狭い視野で読むのではなく、一人の人間として主人公の生き方の真の素晴らしさは何かを考えながら読む。
  - ②人としての弱さやもろさと、強さや素晴らしさのそれぞれを兼ね備えた主人公の

生き方を読み取る。

③資料の登場人物等の言動は、主人公の言動と対照的に描かれていることが多くあり、こうした言動を主人公の心の分身であると捉えて読むこともできることを踏まえ、資料を多面的に読み込む。

④ねらいとする道徳的価値から児童生徒の実態を基に、資料のどこを扱うかを吟味する。

#### (4) 本時のねらい

- ・(1)～(3)を踏まえ、焦点化した道徳的価値を基に、学年の発達段階を考慮し、児童生徒にどのような感じ方や考え方を深め、ねらいに迫っていくかを明確にします。
- ・ねらいは、道徳的価値に照らして簡潔に表現します。本指導資料の事例では、より指導の構想が考えられるよう、「～しようとする心情を育てる。」ためには、何に気付かせることが大切か、そのためには何を考えさせることが必要かを明らかにして、「…に気付き、～しようとする心情を育てる。」という描き方によるねらいを設定しています。

#### (5) 展開の構想・基本発問

- ・4に示す基本的な学習指導過程を参考にして、導入・展開・終末の各学習指導過程において目指す児童生徒の具体的な姿を描きます。
- ・児童生徒の心の動きに即し、ねらいに迫るための基本発問と中心発問を考えます。

## 4 学習指導過程について

### (1) 基本的な指導過程について

学習指導過程は、児童生徒にねらいとする道徳的価値についての自覚を深めるための手順を示すものです。実際の指導に当たっては、児童生徒の実態や扱う資料の特性等によって、多様な学習指導過程が考えられます。ここでは、その中でも基本的な展開例として一つの例を示します。ただし、「いたずらに固定化、形式化することなく、弾力的に扱うなどの工夫をすることが大切である」ことは十分踏まえる必要があります。

- ◇導入→ 主題に対する児童生徒の興味・関心を高め、学習への意欲を喚起します。
  - ・ねらいとする道徳的価値について、生活経験を想起させたり、事前のアンケートの結果を示したりして方向付けをします。
  - ・使用する資料によっては、写真やVTR、効果音などを使った効果的な導入を工夫することも可能です。
- ◇展開→ 資料に描かれた主人公等の行動や生き方を通して、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深めます。
  - ・ねらいとする道徳的価値について、自己の生き方と結び付けながら追求し、より確かな把握ができることを目指します。
  - ・主人公の揺れ動く心やよりよい生き方の実現に向かう心のありようを、じっくりと追求します。
  - ・この過程では、役割演技や話し合い活動等による追求が中心になります。より深まりのある授業にするために、役割演技等の位置付け方や扱い方、児童生徒同士による話し合い活動の位置付け、板書の生かし方などの指導方法を工夫することが大切です。
- ◇終末→ 1時間の授業のまとめをする段階であり、一人一人が見つめた生き方を今

後の生き方へとつなぎます。

- ・ねらいとする道徳的価値についてまとめたり整理したりすることで1時間を振り返ります。
- ・児童生徒がこれからの自己の生き方について、憧れや希望を抱いて1時間を終えられるように、感想を発表したり、書く活動を取り入れたり、教師が説話をしたり、補助的な資料を提示したりするなど、指導方法を工夫します。

## (2) 発問の工夫について

本指導資料の事例では、学習指導過程において、欠くことのできない基本発問を○、道徳的価値を追求する上で中核となる中心発問を◎で表記しました。また、ねらいとする道徳的価値についてより深く追求していくための「深めの発問」を中心発問の後に位置付けました。「深めの発問」は、実際の授業では、その時の児童生徒の反応に応じて、発問の必要の有無も含めて、問いかけ方を変える可能性が大きいものです。しかし、児童生徒に道徳的価値をどこまで捉えさせたいのかを事前に明確にするためにも、この「深めの発問」を事前に考えることは非常に重要なことです。

指導・援助では、授業を進める上で留意することを具体的に述べ、ねらいとする道徳的価値に迫ることができるよう配慮しました。

## (3) 言語活動の充実について

学習指導要領では、「生きる力」の育成に向けて、教科や領域等で言語活動を充実させることが求められています。そこで、昨年度から学習指導過程の資料中に「言語活動の充実」の項目を加えました。ここでは、学年の発達段階、児童生徒の実態等を適切に踏まえるとともに、指導過程のどの段階で、具体的にどのような言語活動に取り組みせるのかを明確にすることが大切です。

## 5 他の教育活動との関連

学校における道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものであることに留意して、道徳の時間の指導と他の教育活動との関連について例示しました。道徳の時間と他の教育活動との関連図の作成に当たっては、以下の2点を基本的な構えとしてまとめました。

- ①道徳の時間を要として、その前後に児童生徒が主体的に関わる教育活動を構想し、それらの一連の過程を位置付けました。また、学習指導要領に「各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの（中略）を別葉にして加えるなどして」と記述されている点を踏まえ、可能な中で教科指導との関連を明記するようにしました。なお、別葉の例もウェブページに掲載してありますので、参考にしてください。
- ②児童生徒の意識を想定して、児童生徒の意識を高めていくための指導・援助を具体的に示しました。児童生徒の意識を高めていくためには、どのような場で、どのような指導・援助が有効か、また、どのような教育活動で行為や意識が把握できるかなど、効果的な関連が大切なポイントです。そこで、他の教育活動における指導・援助の在り方について具体的に示しました。